

### 3. 黄金の木 (イゴロット 北)

昔、高いセントラル山脈の、イトゴンとして知られた所に、貧しい農夫と彼の若い妊娠中の妻がいました。ある日、妊婦の妻は、ひとりで彼らの田へ行きました。そこで彼女は、稲の周りに生えた雑草を取り始めました。良い米が豊かに取れるように世話したのです。これは彼女がいつも行っている仕事でした。しかし、今日は様子が違っていました。妻はお腹に鋭い痛みを感じはじめ、出産が始まったことを知りました。

その妻は農場の彼女の夫の所へ歩いて帰る力も時間もなく、そこ、すなわち、田んぼの真ん中で出産しました。痛みの続いた後、妻は男の子を産みました。妻は喜んで新生児を抱き上げ、腕に抱きしめはじめました。しかし、彼女は、鳴き声が聞こえないので、本能的に恐ろしい間違いがあったことに気付きました。彼女が新しく生まれた息子を見た時、子どもがもう死んでいるのがわかったのです。

取り乱した妻は、死んだ子を夫のもとへ連れて帰ることができず、田んぼの中の静かでおだやかな所に、埋めることにしました。彼女はその墓に涙の祈りをし、そして疲れて、彼らの息子についての悲痛な知らせを夫にするために家に帰りました。

田んぼの土の下に、小さなネズミが、彼のトンネルのひとつを、のろのろ進んでいましたが、赤ちゃんの体に当たると、その体は地に埋められていたので、彼の道を塞いでしまっていました。そのネズミが赤ちゃんの顔の上を進んでいる時、彼の口を舐めました。すると奇跡が起きました。子どもは目を開け、呼吸を始めたのです。驚いたネズミは、子どもが母親によって捨てられたに違いないと考え、その子の世話をする決心をしました。

強い小さなネズミは、その子をトンネルに沿って引っ張り、彼の家に連れて帰りました。それは広く快適な部屋で、田んぼの地下深いところにありました。ネズミは何年も、若い少年になるまで、この子の世話をしました。

フィリピンの神話と伝説 3. 黄金の木

ねずみは大変親切で、少年を愛しましたが、少年は本当の両親に会いたくなりました。そして、ある日ネズミは、少年を地上に連れて行き、母と父の家に行かせました。少年とネズミは、農家の近くの木陰に隠れ、彼の母と父が、朝早く、毎日の農作業をするために家を出るのを見ました。少年は両親を始めて見ることで喜びました。

母と父が彼らの家を出るやいなや、少年はこっそり中に入り、米の粒をとって、大きな深鍋に入れました。彼はその大きな深鍋を熱いストーブの上に置き、1粒の米がどんどん増えて行くのを見守りました。そして鍋は熱い白米でいっぱいになりました。すると少年とネズミは家を出て、土の下のネズミの家に帰りました。

毎日、午後この農家が不在になると、少年は中に入り、1粒の米を深鍋に入れて、鍋がいっぱいになるまで待って、ネズミの家に帰りました。

そのうち、少年の母は、誰が毎日彼女の家に忍び込んで、彼女と夫に深鍋いっぱいのお米をたたくのか、知りたくなりました。そしてある日、彼女は小さなその家の台所に隠れて待ちました。彼女は長時間待つこともなく、少年が家に忍び込み、1粒の米を深鍋に入れるのを見ました。少年が鍋をストーブに置くと、母は手を少年の肩に乗せ、彼をビックリさせました。「あなたは誰？ どうして私の家に毎日忍び込むの？」と母や問いました。彼女は少年の答えにビックリしました。「お母さん。ぼくはあなたの息子です。」母はとても驚きました。彼女は座り込まなければなりませんでした。少年は、ネズミがどのようにして田んぼの下で彼の命を救ったか、数年前のことを説明しました。その母は大喜びしました。彼女の息子は生きていたのです。そして、彼とネズミに、来て彼女と彼女の夫と一緒にその家で住むように頼みました。

そして、ネズミと幸せな少年は、少年の母と父と満たされた生活を何年も何年も続けました。

しかし、ある日、ネズミはとても年老いて病気になるなり、若い少年に告げました。「もうすぐ私はこの世を出て行きます。」少年は泣き出しました。

しかし、ネズミは彼を安心させました。「悲しむな。私が死んだら、家のとなりに私を埋めてくれ。すぐに大きな木が私の墓から育つだろう。この木はたくさんの黄金のくだものを実らせる。この魔法の木から、熟したものだけを収穫しなさい。そして、次に起こることにビックリするだろう。しかし、どんなことがあっても、絶対に魔法の木の話は誰にも言ってはならない。それはお前の家庭だけに永遠に残されるものだ。」そうって老いたネズミは、疲れた目を閉じ、亡くなりました。

家族はネズミの遺言に従い、家の隣に埋めました。するとネズミの予言どおり、数日の内に、大きな木が彼を埋めた所から育ちはじめました。時間も置かず、この木はオレンジの実をつけはじめました。家族は熟れた実だけを取り、すぐにその木が、ネズミの言ったとおり、魔法の木であることがわかりました。実を取るやいなや、彼らの目の前で、奇跡的に純金にか変わったのです。

その家族はすぐにその魔法の木のおかげで、大変な金持ちになりました。それはオレンジの実を付け続け、金にか変わった。しかし、ある日、彼らの幸福は、父親が酔っ払ったとき、終わりを告げました。彼は、友人と飲んで、ビール代を金の大きなかたまりで払いました。友人が彼に、どこでそんな富を手に入れたのか聞いた時、彼はネズミの言葉を忘れ、酒飲みの仲間に、実が金に変わる魔法の木のことを告げました。

すぐに彼の飲み友達も、この魔法の木を見るためにその農夫の家に押しかけました。しかし、彼らが着いて、その木を見ると、彼らの目の前で、その木は枯れたのです。すぐに地は魔法の木を飲み込み、木はもはや二度と生えませんでした。

今日、イトゴンの人々は、魔法の木はまだ存在していると、あなたに言うかもしれません。しかし、それはセントラル山脈の地下にだけあると言うでしょう。なぜなら、この地方の土の下にたくさんの金があるからです。